

1. はじめに

阪神・淡路大震災の発生から、はや2年以上が経過した。神戸市では、震災直後の平成7年6月に「神戸市復興計画」を策定し、震災の教訓をいかした災害に強く安全かつ魅力ある都市として復興するため、鋭意努力を続けている。

ここでは、「神戸市復興計画」の内容を紹介しながら、災害に強い都市として復興していくうえで考慮すべき視点や、神戸市における取り組みを紹介する。

2. 神戸市復興計画について

2.1 復興の基本的視点

復興を考えるにあたり、基本的な視点として以下の3つあげている。

- ①都市の機能性とゆとりとの調和
- ②自然の恩恵・厳しさとの共生
- ③人と人とのふれあいと交流

2.2 復興まちづくりの目標

3つの復興の基本的視点をふまえ、より安全で快適な、にぎわいと魅力あふれるまちをめざし、以下の4つの目標を掲げている。

- ①安心して住み、働き、学び、憩い、集えるまち
- ②創造性に富んだ活力あるまち
- ③個性豊かな魅力あふれるまち
- ④ともに築く協働のまちづくり

このうち、①「安心」の中でも重要な、「安全都市づくり」について1章を設けている。

3. 安全都市づくり

多様な災害から市民生活・都市活動を守るためには、日頃から不意の災害に備えるとともに、災害時にも迅速に市民の生命・財産を守り被害を少なくできる、真に安心してくらせる安全な都市を築いていかなければならない。このようなことから、安全都市づくりにおいて留意すべき視点として以下の3点をあげている。

3.1 留意すべき視点

- ①自立した生活圏の形成
- ②日常性と災害時との調和
- ③市民・事業者・市の役割分担と連携

3.2 安全都市の体系

前述の3つの視点に留意し、都市の総合的な防災性能を高めるために、以下の3つの要素を「安全都市の体系」として考えている。

- ①防災生活圏
- ②防災都市基盤
- ③防災マネジメント

3.2.1 防災生活圏

震災の教訓の一つとして、地域の人々の助け合いによる緊急時の防災活動など、地域を中心としたコミュニティの重要性があげられる。この教訓から、生活の広がりに応じ、最低限自立できる生活圏の形成を位置づけている。

ここでは、企業を含めた地域での助け合いなどによる活動事例を2つほど紹介する。

①企業市民としてのボランティア活動のとりくみ（P&G社。六甲アイランド）

- 六甲アイランドの社員や住民の脱出用にチャーター船を用意。
- 社員のボランティア活動として、被災地各地の避難所などに当社製品を配布。
- 六甲アイランド全体のできるだけ早い復興をめざし設立した「六甲アイランド復興委員会」に参加。
- 避難所での餅つき大会、ぜんざいパーティなどのイベントに参加。

②真野地区での住民組織の活動

真野地区（神戸市長田区）では、30年前から公害反対運動を通じてまちづくり活動が活発に行われ、その成果として他の地区にはないコミュニティを形成していた。その結果、震災時に以下のような成果を生じている。

- 初期消火の成功
- 迅速な体制づくり
- 地元企業の協力…初期消火への協力や避難所などに施設を開放した。
- コミュニティと住民の多様性の力
- ボランティア活動

このように、地域における防災力を高めるためには、日常の福祉活動やまちづくりなどにより地域コミュニティを育むことが重要である。そのため、神戸市では概ね小学校区で「防災福祉コミュニティモデル事業」を推進しており、来年度以降の本格実施をめざしている。

- 進捗状況…平成7年度に11地区モデル実施。

平成8年度中に11地区結成予定（H8.12現在：4地区）

- 活動内容…防災訓練・講習会の実施、防災資機材の配備、防災マップの作成等

3.2.2 防災都市基盤

同時多発の出火、断水等による広域への火災の拡大や、交通渋滞やライフラインの復旧の遅れにより、その後の都市生活に大きな影響が生じた教訓から、災害の拡大を予防する安全な市街地を形成するとともに、迅速な消防活動・救急活動が展開でき、速やかに都市生活の安定を確保できる防災力の強い都市をつくる必要がある。

主な施策として、

“水とみどりのネットワーク”の整備 自然災害の予防、災害に強いライフラインの整備などがあり、特にライフラインの整備については以下の様に様々な対策が講じられている。

- ①電 気：的確な情報収集、設備の耐震構造化、災害対策資機材の確保、二次災害の防止
- ②通 信：耐震対策の見直し、通信センターの分散、ケーブルの光化・地中化、伝送路の多ルート化、重要通話の確保、ボイスメールシステムの導入検討（輻輳対策）
- ③水 道…配水管の耐震化、大容量送水管の整備、緊急貯留システムの整備
- ④下水道…管渠および処理場の耐震性の向上、処理場間の連絡による非常時の代替機能の確保、高度処理水及び雨水の有効利用
- ⑤ガ ス…耐震設計の強化（予防）、初動体制・情報収集機能の強化（緊急）、マイコンメータの設置促進、復旧：供給ブロックの細分化、資機材の確保など

3.2.3 防災マネジメント

災害時に的確な対応をするためには、日頃からの災害への十分な備えと、緊急時に状況に応じて的確に対応できるシステム、および人の判断力が必要である。

主な施策として、

情報収集処理能力の強化、救急救命体制の強化、消防力の強化、ボランティア活動の支援、災害弱者対策の充実、災害文化の継承

などがあげられる。

4. 終わりに

神戸のまちは、ハード面の復旧はかなり進み、復旧の時期から本格的な復興をめざす時期にきている。しかし、乗り越えていかないといけない難しい問題は山積している状況である。これからも、みなさまのご協力、ご支援をいただきながら、一日も早く災害に強く安全なまち、そして魅力あるまちとして復興するようがんばっていききたい。